

### 「学習院サポーターズ倶楽部」リニューアルのお知らせ

愛する学習院をずっと長く応援したいというお声から生まれた「学習院サポーターズ倶楽部」。おかげさまで15年が経過いたしました。皆さまにとって、今以上にご支援を続けやすい制度へとリニューアルするため、現在申込受付（新規・継続）を一時休止しております。詳細が決まり次第ご案内いたしますので、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

## 学習院の名情景

第10回 厩舎 乃木館（旧総寮部）

キャンパスに遺る馴染み深い場所をご紹介しますシリーズ。最終回となる第10回は、「厩舎」と「乃木館（旧総寮部）」です。目白開校から百十余年の歳月を越え、明治期学習院の面影を伝える両建物は、現在も学生たちに大切に利用されています。



現存する貴重な木造厩舎として、国登録有形文化財に登録されている

### 厩 舎

明治41(1908)年の目白キャンパスへ移転前後、赤坂表町の憲兵分隊で使用されていた厩舎が学習院に移築されました。これが今もキャンパス南端に建つ厩舎で、学習院で最も古い歴史を持つ建物です。当初は学習院の敷地であった目白通りの北側にあり、関東大震災後の道路拡幅にともない昭和2(1927)年に現在地に移されました。建物は木造平屋建てで、中央通路の両側に馬房を配し、出入り口を四方に設けた平面構成。馬の世話がやすく、出入りがスムーズであることを重視した軍隊式の設計とされています。屋根中央には通風に配慮した越屋根があり、壁には回転式窓と換気口を設けて採光・通気性を高めるなど、馬の健康と快適性への十分な配慮がなされています。現在地への移転時に屋根は瓦葺からスレート葺に、外壁下部は板張りから鉄筋コンクリート造りに変更したことで強度を高めました。さらにその後、個々の馬房も約1.5倍の広さに拡張しました。

戦前の学習院は馬術教育に力を入れており、

馬術界に名を馳せる数多くの人物を輩出しています。その一人が学習院初等科出身で、昭和7(1932)年のロサンゼルスオリンピックの馬術競技で金メダルを獲得した西竹一(明治35《1902》～昭和20《1945》年)です。「バロン西」の名で海外でも親しまれました。

戦後は馬の確保や餌の入手難などにより存続が危ぶまれましたが、高等科と大学の部活動施設



目白通り北側にあった移築前の厩舎。屋根は瓦葺、外壁は板張りだった

として復興。以来、馬術部学生によって大切に管理・運営され、学習院馬術の伝統を支え続けています。

### 乃 木 館（旧総寮部）

キャンパスの南西奥、深い緑を背景に静かにたたずむ木造平屋建ての乃木館は、明治41(1908)年、全6棟あった寄宿舎の事務機能を持つ「総寮部」とし



簡素な外観を持つ乃木館。設計は学校建築の第一人者であった久留正道

て建てられました。明治40(1907)年、学習院第10代院長に就任した乃木希典(嘉永2《1849》～大正元



《1912》年)は、全寮制を提案し、自らもこの建物の一角に入居。翌年、洋館を備えた堂々たる外観の院長官舎(昭和39《1964》年博物館明治村に移築)が完成した後も、そちらに移らず、大正元(1912)年に亡くなるまでこの建物で起居しました。その頃の総寮部は、正門を入った左手、学生の寄宿舍群に隣接する位置にありました。日露戦争で二人の息子を失った乃木は、我が子のように可愛がった学生たちの生活を身近に感じられる場所を住処に選んだのです。

竣工当時の建物は、乃木の寝室、会議室兼居室、事務室、購買部、倉庫などからなり、乃木は学生と同じベッドや机、書棚などを使用していました。

ここで乃木は毎朝4時に起床し、洗面から手洗いまでやかん一杯の水で済ませ、冬の暖房は火鉢のみ、就寝時には上衣だけ脱いでズボンはそのままに床に就くなど、軍隊生活で身に付けた質実剛健な暮らしぶりでした。乃木の没後、第二次世界大戦末期の昭和19(1944)年に乃木の居室部分を「乃木館」としてキャンパスの南西地へ移築。その後、玄関や手洗い場の増築、畳張りへの改装等が行われ、現在は書道部等の活動に利用されています。



総寮部時代の建物はL字型で、写真の  
手前部分が乃木館として残された

取材協力:学習院大学史料館 学芸員 富田ゆり 写真提供:学習院大学史料館 参考文献:『学習院馬術百二十年史』



## 第1回 正門★

letter vol.7

「学習院サポーターズ倶楽部会員レター」の新シリーズとして始まった「学習院の名情景」。第1回は学習院の顔とも言うべき「正門」を紹介しました。



## 第2回 東別館(旧皇族寮)★

letter vol.8

東別館は、皇族学生のための寄宿舍であった由来を持つ建物。馬車にあわせて作られた車寄せが見事。平成28(2016)年まで教室棟として使用されていました。



## 第3回 日立目白クラブ(旧昭和寮)★

letter vol.9

長きにわたる学習院の歴史の中で、初めて学校敷地外に建てられたのが旧昭和寮です。旧制学習院高等科の学生寮として使用されていました。



## 第4回 前川國男の建築物★

letter vol.10

日本モダニズム建築の巨匠・前川國男が手掛けた大学校舎群を紹介。ピラミッド型大教室は現存しないが北1号館・南2号館・図書館※は今も利用されています。



③ 日立目白クラブ(旧昭和寮)の所在地は、東京都新宿区下落合です。

## 第5回 南1号館(旧理科特別教場)★

letter vol.11

ネオ・ゴシック様式の美しい外観や意匠、化学遺産に認定されたドラフトチャンバーを有する建物。改修工事を経て、一般教室として利用されています。



## 第6回 a 乃木号碑 b 出陣の碑★

letter vol.12

日露戦争と第二次世界大戦のエピソードにつながる二つの碑には、学習院の歴史に名を刻む二人の院長が深く関わっていました。



## 第7回 西1号館(旧中等科教場)★

letter vol.13

宮内省内匠寮の権藤要吉が手掛けた文科系の教室棟。充実した講義内容をふまえ、内装や調度品にも配慮した建物。現在も教室棟として利用されています。



## 第8回 大学図書館※

letter vol.14

大学図書館は、前川國男が設計した大学校舎群(第4回で紹介)の一つ。外観、構造、意匠の隅々に巨匠の哲学が息づいています。



## 第9回 北別館(旧図書館)★

letter vol.15

一世紀以上が過ぎた現在も竣工当時の清楚なたたずまいを保つ北別館。明治期の学校建築を多く手掛けた久留正道の貴重な遺作。



## 第10回 a 厩舎★ b 乃木館(旧総寮部)★

letter vol.16

百十余年の歳月を越え、明治期学習院の面影を伝える厩舎と乃木館。現在も学生たちに大切に利用されています。



※現大学図書館は、間もなく役割を終え、新たな活用を検討中です。なお、大学図書館の機能は、令和5(2023)年3月完成予定の大学新東1号館(仮称)に引き継がれます。

「学習院の名情景」は、本号を持ちまして最終回となります。これまでご愛読くださったことに感謝申し上げます。